

## 広島県立祇園北高等学校



### 1. 本校の沿革・概要

本校は、人口が急増した広島市街北辺に、昭和58年4月に開校した、広島県内でもっとも新しい学校の1つである。平成12年度から3年間、広島県教育委員会から学力向上重点校、本年度は進学指導重点校の指定を受け、学力の向上に努めている。その結果、国公立大学合格者は、平成14年度113名、平成15年度125名に上る。

文武両道の精神のもと、クラブ活動も活発で、過去2年では、陸上部・卓球部のインターハイ出場、野球部の夏の広島県大会第4位などの実績をあげた。開校以来一貫して、文武両道、授業と補習を通じて学力を伸ばすという姿勢で取り組んでおり、着実に成果をあげてきた。

### 2. 学校経営計画

平成15年度から、次に示す中期達成目標、年度達成目標を定め、各教科・各分掌において学力向上を目指した取り組みを精力的に実施している。

#### 中期達成目標

- ①授業時間数の確保と授業内容の充実
- ②生徒の進路志望や特性等に応じた教育課程の編成
- ③進路指導の充実と進路意識の高揚
- ④教科学力の向上

#### 年度達成目標

- ①指導内容の精選と体系化を図るとともに指導方法の改善を行い、1時間の授業を充実させる。
- ②生徒の進路志望や特性に応じた教科・科目を設置するとともに、個に応じたきめ細かい指導を行う。

③啓発的経験を進路学習に取り入れ、進路意識を高めて早期に進路目標を設定させる。

④生徒1人ひとりの進路実現に向けて、大学入試に十分対応できる教科学力を育成する。

### 3. 本校の特色 —放送大学の活用—

#### (1)学校設定科目「アカデミックセミナー」の開講

平成14年7月、放送大学との間で連携協力の協定を締結し、学校設定科目として「アカデミックセミナー」を開講することとした。この目的は、早期に高度な学問にふれることにより、進路意識を高めさせることにある。広島県では、広島大学等からなる高等教育機関協議会との間で協定が結ばれ、高校生が大学で授業を受講できる制度が整っているが、本校は市内中心部から離れているということもあり、その制度を有効に活用できていない。そこで、時間を有効活用できる放送大学の授業を活用することとした。

放送大学の利点は、①科目履修生となることによって大学の単位を取得できる。②本校の単位を取得できる（広島県教育委員会による認定）。③放送大学と協定を結んでいる大学で単位互換の制度がある場合、進学後本校在学中に取得した放送大学の単位を生かせることなどがある。以上の利



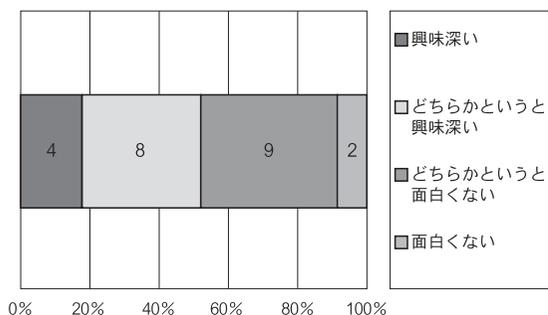
アカデミックセミナー科目、受講者数

	14年度 後期	15年度 前期	15年度 後期
平安朝の文学	1	1	2
英語Ⅲ	6	3	1
物理の世界	10	1	
物質の世界－化学入門－	4		1
初等微積分学	3	1	1
心理学初歩	1	4	1
ヨーロッパの歴史	1		
食物とからだ		1	
ドイツ語Ⅰ		1	1
フランス語Ⅰ		1	1
合計人数	26	13	8
大学の単位取得率	85%	62%	

点を生かそうと、各教科で高校生が受講して理解できそうな科目の選定にとりかかった。全教科で検討して14科目を選定し、放送大学に連携協力の申請を行うとともに、生徒・保護者へPR活動を行い、初年度後期は、のべ26名の受講希望があった。授業は、全15回の放送テープの視聴と、その後の担当教科の補足授業によって進め、中途でのレポート提出のための指導を行い、学期末に単位認定試験を、本校を外部会場として実施した。その結果、初年度後期の単位取得率は85%、本年度前期は62%に達した。この数値は、我々が想定していたよりも高い結果であり、多くの生徒が自信をもつ結果となったし、何より学問への関心を高めることに結びついている。中間アンケートでは、アカデミックセミナーを受講した生徒のうち、82%の生徒が内容が難しいと回答したものの、70%がやる気はあり、単位取得を目指して努力したいと回答しており、生徒の意欲・関心は高い。

#### (2) 教員が大学院修士科目生として活用

放送大学を活用しているのは、生徒ばかりではない。教員免許法及び同法施行規則に定める単位を取得することにより、現職教員が専修免許状を



取得できる制度（平成15年度認定分まで3科目6単位取得で認定）を活用し、専修免許状を取得しようと、のべ26名の教員が修士科目生となった。この結果、本校での専修免許状取得率は、大学院卒の教員も含めるとかなりの割合に達している。

大学院科目履修生（本校教員）

	14年度 前期	14年度 後期	15年度 前期	15年度 後期
履修者数	1	5	14	6

#### 4. 理数コースの設置

特色ある学校づくりを進める一環として、本年度普通科に理数コース（定員40名）を設置した。教育課程は、理科2科目、第2・3学年で専門教育に関する各教科・科目及び特別設定科目を取り入れた。第2学年では、各個人が数学に関するテーマを設定し、広島市立大学と連携し、年間を通して研究していく「理数課題研究」（数学）を実施する予定である。さらに、第3学年では「理数課題研究」（理科）として、「熱効率と自動車」、「クリーンエネルギーの研究」、「発光細菌の単離と培養」などを予定している。

また、設置初年度の今年、サイエンスキャンプで島根原子力発電所を見学し、九州大学大学院の清水昭比古教授から「エネルギー問題と環境問題」の特別講義を受けた。このほかにも、文部科学省の企画するサイエンス・パートナーシップ・プログラムで、広島大学古賀信吉助教授による「科学の目で見ると身近な自然と私たちの生活」の講義を受けたり、広島市の大型ゴミ破碎処理施設見学などを実施し、探求心の育成によって、高い学力の養成を目指している。

（文責 広島県立祇園北高等学校教諭 三保光成）